

令和7年度 重点目標・行動計画 自己評価

評価 A 達成 B 一定達成 C 十分達成していない O 現時点では未評価

1 中等教育学校教育実践の振り返り中高一貫教育の特長を

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
① SNSの活用等による情報発信力の強化、広報イベントの改善、入試方法の一部改善	A	入試広報戦略会議を立ち上げ、入試対策部と連携し、学校説明会や情報発信の様々な改善を行った。HPやSNSでは学校行事を含め、日常の様子を2日に1度以上の更新を行い発信した。加えて、学校説明会PRやWEB出願開始、大学入試合格速報など、時期に応じて入試・広報情報も発信できた。 第1回学校説明会を「鈴6フェア」に名称変更し、体験講座や生徒による学校説明も加え大変好評を得た。第2回、第3回での学校説明会でも、できるだけ生徒の発表や生徒参加の場を増やした。その他、令和8年度の全入試において英検加点を導入したほか、AO入試では、英検以外のその他活動実績に対する加点制度も加え、より幅広く様々な力を評価する入試を導入することができた。
② 英語教育シンポジウムを公開開催し、本校独自の英語教育を発信	A	県内中学校、高等学校、教育委員会、インターナショナルスクール、学習塾、英会話教室等幅広く多くの方々に参加いただいた。参加者には、前期課程授業から、後期課程生による英語を用いたディベート授業に至るまでを見学いただくことで、本校の英語教育の流れを理解いただき、高い評価を得た。
③ 創立40周年記念事業(令和8年度実施)として、記念講演等の準備	A	令和8年11月20日(金) 記念式典、記念講演実施を決定。記念講演登壇者として真鍋 真氏に正式依頼を行った。40周年記念事業の一環として、記念講演に加えて、真鍋先生による小学生向け講演会企画、在校生参加型の企画も検討し実施していく運びとなっている。
④ フィリピンセブ大学の中高との交流を今年より開始、また、ベトナムの学校との交流を検討	A	鈴鹿享栄学園とセブ大学との教育・研究・文化交流の5年間の協定締結。今後も英語力向上のみならず、異文化交流を継続していく。
⑤ 難関国立大学+医学部医学科合格10名以上、国公立大学合格50名以上	A	難関国立は15名(旧帝11、医学部医学科4)、国公立大学は59名合格(内現役55名)。ほぼ2名に1名が国公立大に合格。

2 主体性ある生徒の育成

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
① 教員、保護者、来校者に自ら進んでできるあいさつ奨励	B	ここ数年来、継続的にあいさつができる校風となっている。今年度も生徒会執行部のあいさつ運動の継続もあり、進んであいさつが出来る生徒が増加した。
② 自身を分析し自分を語るプレゼンテーション3・5年次実施	B	5学年はテーマスタディとして、3学年は大学調べ、三重大学訪問を踏まえて、志望校を決定し、その理由と共に発表した。当初は、5年生の発表を3年生が見学する予定であったが、学年内発表に留まったが、一定の成果を得た。
③ 「鈴6未来ナビ」の医系、キャリア、学問の3部門における生徒向け校内講演会の拡充	A	今年度から進路指導部主導の生徒向け講演会を「鈴6未来ナビ」称し、医系の扉、キャリアの扉、学問の扉の3部門を設置した。3部門においてバランスよく全12回の講演会と2回の座談会を開催することができた。
④ 校外のボランティア活動、コンテスト、英検・数検等の資格取得奨励	B	生徒の個性を伸ばす取り組みを続けていたことで、科学の甲子園出場の快挙を成した。他全国大会に出場する生徒も増えた。ボランティア活動については、主に地域行事に、クラブ生や有志として内容に応じて積極的に参加することができた。 各種検定は、大学入試における取得期限が設けられている背景もあるが、生徒の意欲向上のため資格取得を積極的に奨励していく。
⑤ 防災リーダーの養成充実、生徒防災チームの活動を通して、防災意識の向上	B	県の防災ボランティア事業に昨年度に引き続き、生徒2名が参加した。また、有志のメンバーがときめきサポート制度を利用して、防災啓発のための活動を実施した。 教職員も専門研修及び、県の防災研修に2名が参加した。
⑥ 人権学習体系に基づく取組による人権意識のさらなる向上と、性教育体系に基づく取組を通じた性暴力の当事者にしない実践	B	おおむね計画どおりに実施できたが、次年度以降でさらなる改善を目指し、より実効性のある取り組みにしたい。
⑦ ピンクシャツ運動2月に3週間、いじめ防止・人権フォーラム(年3回)を通じて、いじめや差別を生まない仲間づくりの充実	B	生徒会執行部・人権委員会との協力のもと、ピンクシャツ運動を展開することができた。いじめ防止・人権フォーラムに前期課程生の数々が連続して参加できた。
⑧ 通学路等校外において地域社会から認められる行動規律の遵守	B	年間を通して数件のクレームはあったが昨年までのクレーム数より大幅に減った。登校指導の成果も一定数あったとみられる。
⑨ 学校行事を通して学年の縦の交流を充実させるとともに、生徒会掲示板の活用等による執行部と生徒全員との情報共有の強化	B	鈴青祭やその他の行事を通して、学年間の交流の機会を持つことができた。また、生徒全員との情報共有の為に、生徒会掲示板を活用するとともに、classiを有効に活用することができた。次年度以降もさらなる情報共有につなげていく。
⑩ 図書館利用活性化のため、電子図書館システムの導入検討	B	電子書籍については、閲覧期間が限定されること、コスト的に非常に高価であることに加え、出版数が非常に少ないため、今年度は導入見送り、発行数などを引き続き研究を続ける。

3 教育環境の向上

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
① 創立40周年記念事業として、本館のエレベータ設置準備および募金活動の開始	B	本館エレベータ設置に向け、事前調査及び本体工事の設計業務を実施した。また、募金活動の開始に向けて、税額控除に係る特定公益増進法人の認可を受けた。令和8年度に実施。
② 今年度からスタートした「学園中期施設整備計画」の着実な実行とさらなる具体化 に向けた取組の推進	A	「学園中期施設整備計画」で令和7年度実施計画に掲げた事業については、すべてを実施した。また、令和8年度の本館エレベータ設置に向けて事前調査及び設計業務等を実施したほか、次年度以降の具体化に向けて検討を行った。

4 教職員にとってやりがいのある環境づくり 働き方改革に向けて

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
① 事務作業負担軽減のためDX化の研究と実施	C	DXの進め方について、関係者で協議を行った。まずは、目に見える具体的な課題から取り組むということで、旅費の精算チェックにおける省力化等をテーマに取り上げることとした。
② 教員負担軽減のため自動採点システム等の導入の検討	B	研修を通じて情報を収集した上で、令和8年度に導入し、教員の負担軽減につなげていく。
③ ブラッシュアップ研修の新設(令和7年度は数学)	A	2名の教員が受講。一定の経験値のある教員が改めて学ぶことで得られることも多かった。数学科としてのフィードバックにつなげることができた。
④ 業務のスクラップ & ビルド	B	統合型校務支援システムの改善による事務作業の効率化、機械警備を導入による職員の就業時間短縮につなげることができた。教職員の業務内容まで踏み込んだ十分なスクラップには至っていないため、継続して実施していく。事務処理に係るシステム化も推進していく。
⑤ カスタマーハラスメントの研究とガイドラインの検討	B	先事例の研究、具体的なガイドライン策定のための検討を行った。令和8年度早期におけるガイドライン策定につなげる。

1学年 TRIAL&ERROR ～Learn & Grow～

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○ 大きな声で授業開始の挨拶ができる100%	A	授業開始時の挨拶は100%達成。日常的に声を出して挨拶できる生徒も多い。「挨拶」のことは必ず学年集会で話をしているので、学年のなかでも意識されている。
○ 家庭学習時間 平日60分以上、休日120分以上の生徒割合60%以上	B	平日55%、休日57%と若干達成できなかったが、各学期に2回の面談を行い、BC個票と生活PLANを見直しをしながら学習時間が少しずつ増えてきた。
○ BCの平均得点率 医進選抜80%以上が70%以上、特進70%以上60%以上	A	2学期まで医進71.7%、特進57.7、3学期まで医進71.2%、特進61.5%と2学期以降特進の得点率が上がった。
○ 第2回学力推移調査 英語GTZ S層15名以上、S・A層50名以上	C	S層9名、S・A層34名と未達成。1年生では英語重視しようと高い目標を掲げて挑戦した。家庭学習時間をもっと増やさせる必要があった。
○ 英検受験100% 1年生で全員受験を1度は済ませておく(小学生時を含む)	B	英検受験率88%。複数回受験をした生徒もいた。
○ 「鈴6未来ナビ」1回以上参加 医進選抜60%以上、特進30%以上	C	医進で35.4%、特進で16.2%。年度初めに参加する意義をうまく生徒に伝えることができなかった。

2学年 コツコツが勝つコツ

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○ 聞こえる声で挨拶ができる100%、自ら挨拶ができる70%以上	B	聞こえる声で挨拶ができる生徒は92.8% 自ら挨拶ができる生徒は76.6% きちんと挨拶ができる生徒が増えてきている。このまま指導を継続していきたい。
○ 睡眠の重要性を説く。睡眠時間7時間以上	B	学年の平均睡眠時間 6時間54分 という現状である。概ね目標を達成することができた。睡眠時間をしっかり確保させることにより集中して授業に臨むことができる生徒が増えたように感じる。
○ 家庭学習時間 平日2時間以上、休日4時間以上	C	学年の平均学習時間 平日60分、休日132分 という現状である。目標に届かず。学習体力をつけさせるためにも生徒たちが自主的に学習に向かえるような取り組みを検討していきたい。
○ BCの平均得点率 全体70%以上、医進選抜80%以上、特進60%以上	A	BCの平均得点率 医進93%、特進84%、全体86% 目標を達成することができた。高い水準を維持することができている。
○ 第2回学力推移調査 GTZ A1以上30名以上、B1以上60名以上	B	第2回学力推移調査のGTZ A1以上25名、B1以上62名であった。 やや目標に届かなかった。上位層育成が次年度以降の課題である。
○ 英検取得者数 90%以上	C	英検取得者数 (83.9%) 5級 6名、4級 32名、3級 40名、準2級 12名、 準2級+ 2名、2級 1名、準1級 1名、1級 0名 やや目標に届かなかった。昨年度から取得者数を増やすことができたため、指導を継続していきたい。
○ 就きたい職業または進学したい大学の明確化100%	C	学年のキャリア教育として、少しずつ「大学とは？」ということにフォーカスを当てながら、時間をかけて指導を行ってきた。しかし、大学の調べ方などから説明をし、進めてきたため、目標としていたところまでたどり着くことができなかった。
○ 長期休暇を利用した企業訪問等を通して、職業観の涵養	A	学年のキャリア教育として、「働くとは？」ということにフォーカスを当てながら、指導を行ってきた。その一環として、夏休み中に企業訪問を行った。生徒たちは、実際に働いている人へインタビューをし、働くことの大変さとやりがいについて肌身で感じるすることができた。

3学年 基礎・基本から発展へ

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○ Weekly Agenda活用による忘れ物0	B	朝や帰りのSHRなどの書き込むタイミングが決まっているときには、Weekly Agendaを活用し、必要な事項を書き込むことができていた。しかし、それ以外の場面でメモをする習慣がついていない生徒もおり、忘れ物をする生徒が一定数残っている。
○ 家庭自主学習時間 平日90分以上、休日180分以上 各人が理想とする学習プランを曜日別に立て、PDCAサイクルを細かく回し、家庭学習習慣の定着	C	平日の学習時間55分、休日の学習時間119分であり、最低限度の取り組みだけで満足してしまっている生徒が一定数いる。
○ 第2回学力推移調査のGTZ S層10名以上、A1以上 25名以上、B1以上65名以上、D層10名未満	C	S層 7名 A1以上 15名 B1以上 65名 D層 5名 下位層からの底上げをすることはできたが、上位層を伸ばすことは今後の課題として残った。
○ 英検3級以上受験8割以上、準2級以上取得5割以上	B	英検の取得または受験の数は、3級以上が81.1%、準2級以上が57.5%となり、目標に向けて意欲的に挑戦してくれた。
○ 全員が3年生終了時点で、第一志望校を志望理由と共に発表	A	全国の国公立大学を各クラスに割り振り、一人ひとつ以上の大学を調べ、スピーチを行った。また、2学期には三重大への探訪を行った。それを踏まえ、年度末には自分が大学を選ぶための観点を考え、現時点での第一志望となる大学を決定し、その理由と共に発表することができた。

4学年 『自』

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○ 遅刻の数を昨年度比10%減	B	ほぼ多数の生徒は遅刻なく登校できたが、体調面の問題から一部生徒の遅刻が多かった。昨年比10%減で達成
○ 1月全統模試 偏差値60以上15名以上、40以下15名以下	B	偏差値60以上13名、40以下12名とわずかに届かなかった。
○ 大学の先生を招いての講座等、大学・学問・研究等に 触れる機会を学年として年3回提供。オープンキャンパスや夢ナビライブ等への参加者100%	B	4月に三重大・坂本先生をお招きして探究に関する講義、11月に東大キャンパスツアーを実施した。オープンキャンパスや夢ナビライブにはほぼすべての生徒が参加した。
○ 英検 昨年度取得した級より1つ上の級に合格する 生徒数80%以上	C	取得している級が上がってきているので、1つ上の級を取るというのが簡単ではなかった。

5学年 明るく前向きに志望校を目指す

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○ 第2回スタディサポート(学習状況) A3以上35名以上、C1以下30名以下	B	A3以上35名は達成できたが、C1以下30名以下は達成できなかった。
○ 全統模試 英数国・5教科総合 偏差値60以上23名以上、50以上64名以上	C	全統共通模試における偏差値60以上は22名とわずかに及ばなかった。偏差値50以上は57名となり及ばなかった。
○ 英検取得 2級以上40名以上、準2級以上90名以上	A	2級以上が43名、準2級以上が91名とともに達成することができた。
○ 大学の理解度を深めて、志望理由書作成率100%	B	全員が1回(生徒によっては複数回)志望理由書を書くことができた。また、リクルートの講演などで理解度が高まった様子も見られた。
○ 定期考査の結果および模試の結果に応じて、習熟度別 講座編成による個別最適な講座の展開	B	習熟度に応じて講座を展開し、各レベルに応じた内容を提供できたが、個別最適化としては課題が残った。
○ 6月実施TS発表会や最終発表会、3年生への優秀者の発表会を通じて、全員が5学年終了時に、TS内容を入試で語るまでに深化	C	5学年に向けてのTS優秀者の発表を実施したが、3年生に向けての発表することはできなかった。前向きに取り組む姿勢は学年全体として評価できるが、学術的なレベルの研究は少数であった。

6学年 本気度を上げる

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○ 共通テスト 難関大レベル 75%以上 20名以上 国公立レベル 60%以上 60名以上	A	難関大学受験者24名、国公立大学受験者76名 目標としていた数値以上の生徒が両レベルの大学に挑戦することができた。
○ 全統記述模試 難関大レベル 偏差値60以上 15名以上 国公立レベル 偏差値50以上 60名以上	A	難関大学現役合格者14名、国公立大学現役合格者55名 目標を達成することができた。
○ 放課後の時間の活用 英国数に加え理科・社会の複数講座を生徒のレベルに合わせて実施	B	放課後や長期休み、2次試験の対策講座などを計画的に実施することができた。
○ 生徒の進路に応じたLHRの活用 医系指導、大学の調査、学習計画、志望理由書の作成	B	生徒の希望進路に応じたLHRを1学期6回、2学期6回実施することができた。

保護者アンケート 集計			令和6年度(12月)				令和7年度(7月)				令和7年度(12月)			
			そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない
1	教育目標	建学の精神である「誠実で信頼される人に」が生徒や保護者に明確に示され、学校教育目標に基づき運営されている	41.2%	49.6%	7.0%	2.2%	44.2%	49.3%	5.6%	0.9%	39.7%	53.4%	6.4%	0.5%
2	学習指導	学習指導において生徒一人ひとりの状況や習熟度に応じた適切な指導をしている	41.2%	44.2%	11.9%	2.7%	43.9%	47.3%	7.2%	1.6%	44.3%	44.7%	9.4%	1.6%
3	進路指導	学年に応じた進路指導が充実している	42.3%	47.7%	8.9%	1.1%	43.3%	49.3%	6.5%	0.9%	41.3%	48.9%	9.2%	0.7%
4	生活指導	基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導が行われている	30.5%	55.0%	11.6%	3.0%	34.8%	54.5%	9.2%	1.6%	33.5%	55.0%	9.4%	2.1%
5	教育相談	一人ひとりの生徒の様子を常に把握し、親身になって悩みや相談にのってくれる	44.2%	42.0%	11.3%	2.4%	44.4%	47.8%	6.3%	1.6%	40.6%	44.7%	12.8%	1.8%
6	学校生活	学校行事やクラブ活動などで、生徒の活躍できる機会が多い	36.9%	49.3%	11.9%	1.9%	44.4%	43.0%	10.5%	2.0%	43.1%	42.0%	12.8%	2.1%
7		保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる	46.9%	45.3%	5.9%	1.9%	46.4%	46.9%	5.6%	1.1%	46.6%	44.3%	7.6%	1.6%
8	教育環境	安心・安全で満足いく施設・設備である	50.1%	44.5%	4.6%	0.8%	51.3%	42.2%	6.1%	0.4%	49.1%	42.7%	7.1%	1.1%
9	家庭との連携	学校からの情報はメール配信・ホームページや通信等で十分に保護者に伝わっている	50.9%	35.8%	12.1%	1.1%	49.1%	39.9%	10.1%	0.9%	45.2%	43.6%	9.6%	1.6%
10		保護者会活動が活発である	23.5%	54.7%	19.7%	2.2%	30.3%	58.3%	10.1%	1.3%	31.7%	47.2%	20.0%	1.1%
11	満足度	子どもを入学させてよかった	58.0%	34.8%	6.7%	0.5%	61.0%	34.8%	3.1%	1.1%	61.4%	33.1%	4.4%	1.1%

令和7年度 重点目標・行動計画 鈴鹿中等教育学校

建学の精神 「誠実で信頼される人に」
学園経営方針 「生徒、保護者、地域の満足度向上」
目指す人物像 「主体性ある自由な人」

教育実践目標

1. 主体的な学びを育み、真の学力を養成します
2. 自主・自律の校風づくりをします
3. 違いを認め合い、自他を尊重する仲間づくり

重点目標及び行動計画

1 本校の特長をより多くの人々へ発信

- ① SNSの活用等による情報発信力の強化、広報イベントの改善、入試方法の一部改善
- ② 英語教育シンポジウムを公開開催し、本校独自の英語教育を発信
- ③ 創立40周年記念事業(令和8年度実施)として、記念講演等の準備
- ④ フィリピンセブ大学の中高との交流を今年より開始、また、ベトナムの学校との交流を検討
- ⑤ 難関国立大学+医学部医学科合格10名以上、国公立大学合格50名以上

2 主体性ある生徒の育成

- ① 教員、保護者、来校者に自ら進んでできるあいさつ奨励
- ② 自身を分析し自分を語るプレゼンテーション3・5年次実施
- ③ 「鈴6未来ナビ」の医系、キャリア、学問の3部門における生徒向け校内講演会の拡充
- ④ 校外のボランティア活動、コンテスト、英検・数検等の資格取得奨励
- ⑤ 防災リーダーの養成充実、生徒防災チームの活動を通して、防災意識の向上
- ⑥ 人権学習体系に基づく取組による人権意識のさらなる向上と、性教育体系に基づく取組を通じた性暴力の当事者にしない実践
- ⑦ ピンクシャツ運動2月に3週間、いじめ防止・人権フォーラム(年3回)を通じて、いじめや差別を生まない仲間づくりの充実
- ⑧ 通学路等校外において地域社会から認められる行動規律の遵守
- ⑨ 学校行事を通して学年の縦の交流を充実させるとともに、生徒会掲示板の活用等による執行部と生徒全員との情報共有の強化
- ⑩ 図書館利用活性化のため、電子図書館システムの導入検討

3 教育環境の向上

- ① 創立40周年記念事業として、本館のエレベータ設置準備および募金活動の開始
- ② 今年度からスタートした「学園中期施設整備計画」の着実な実行とさらなる具体化に向けた取組の推進

4 教職員にとってやりがいのある環境づくり 働き方改革に向けて

- ① 事務作業負担軽減のためDX化の研究と実施
- ② 教員負担軽減のため自動採点システム等の導入の検討
- ③ ブラッシュアップ研修の新設(令和7年度は数学)
- ④ 業務のスクラップ & ビルド
- ⑤ カスタマーハラスメントの研究とガイドラインの検討

学年目標

1 学年「TRIAL & ERROR ～ Learn & Grow ～」

- 大きな声で授業開始の挨拶ができる100%
- 家庭学習時間 平日60分以上、休日120分以上の生徒割合60%以上
- BCの平均得点率 医進選抜80%以上が70%以上、特進70%以上60%以上
- 第2回学力推移調査 英語GTZ S層15名以上、S・A層50名以上
- 英検受験100% 1年生で全員受験を1度は済ませておく(小学生時を含む)
- 「鈴6未来ナビ」1回以上参加 医進選抜60%以上、特進30%以上

2 学年「コツコツが勝つコツ」

- 聞こえる声で挨拶ができる100%、自ら挨拶ができる70%以上
- 睡眠の重要性を説く。睡眠時間7時間以上
- 家庭学習時間 平日2時間以上、休日4時間以上
- BCの平均得点率 全体70%以上、医進選抜80%以上、特進60%以上
- 第2回学力推移調査 GTZ A1以上30名以上、B1以上60名以上
- 英検取得者数 90%以上
- 就きたい職業または進学したい大学の明確化 100%
- 長期休暇を利用した企業訪問等を通して、職業観の涵養

3 学年「基礎・基本から発展へ」

- Weekly Agenda活用による忘れ物0
- 家庭自主学习時間 平日90分以上、休日180分以上 各人が理想とする学習プランを曜日別に立て、PDCAサイクルを細かく回し、家庭学習習慣の定着
- 第2回学力推移調査のGTZ S層10名以上、A1以上25名以上、B1以上65名以上、D層10名未満
- 英検3級以上受験8割以上、準2級以上取得5割以上
- 全員が3年生終了時点で、第一志望校を理由と共に発表

4 学年「『自』」

- 遅刻の数を昨年度比10%減
- 1月全統模試 偏差値60以上15名以上、40以下15名以下
- 大学の先生を招いての講座等、大学・学問・研究等に触れる機会を学年として年3回提供。オープンキャンパスや夢ナビライブ等への参加者100%
- 英検 昨年度取得した級より1つ上の級に合格する生徒数80%以上

5 学年「明るく前向きに志望校を目指す」

- 第2回スタディサポート(学習状況) A3以上35名以上、C1以下30名以下
- 全統模試 英数国・5教科総合 偏差値60以上23名以上、50以上64名以上
- 英検取得 2級以上40名以上、準2級以上90名以上
- 大学の理解度を深めて、志望理由書作成率100%
- 定期考査の結果および模試の結果に応じて、習熟度別講座編成による個別最適な講座の展開
- 6月実施TS発表会や最終発表会、3年生への優秀者の発表会を通じて、全員が5学年終了時に、TS内容を入試で語れるまでに深化

6 学年「本気度を上げる」

- 共通テスト 難関大レベル 75%以上 20名以上 国公立レベル 60%以上 60名以上
- 全統記述模試 難関大レベル 偏差値60以上 15名以上 国公立レベル 偏差値50以上 60名以上
- 放課後の時間の活用 英国数に加え理科・社会の複数講座を生徒のレベルに合わせて実施
- 生徒の進路に応じたLHRの活用 医系指導、大学の調査、学習計画、志望理由書の作成



各教科の目標

ホームページに目標およびシラバスを掲載していますのでご覧ください。



学校法人 鈴鹿享栄学園

鈴鹿中等教育学校